

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年6月5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890100118		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護施設 うちらは	ユニット名	—
所在地	〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵町4708-41		
自己評価作成日	平成25年9月20日	評価結果 市町村受理日	平成26年6月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_021_kani=true&JigyosyoCd=0890100118-00&PrefCd=08&VersionCd=021
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年11月28日	評価機関 決 済 日	平成26年5月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>季節感を感じられるように、年間行事を行い、ボランティアや地域の人々との交流を図っています。</p> <p>また、利用者様と職員とのコミュニケーションを大切にしながら、馴染みの関係の中で、安心して生活ができるよう一人ひとりの持てる力を十分に発揮できるように支援しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>地域の文化祭に利用者と職員で制作した作品を出展したり、天気の良い日は近所に散歩に出かけ、近隣住民と会話を交わしたりしているほか、近隣住民からは野菜のお裾分けがあるなど、地域の人々と双方向の交流をしている。</p> <p>隣接するグループホームと合同で実施する運動会や夏祭りに地域住民に参加を呼びかけ、地域に根ざした事業所となるよう努めている。</p> <p>職員の考案で利用者と職員と一緒に手作りした木の実のリースなどを居間に飾り、季節を感じながら利用者が趣味活動に取り組み、生き生きと過ごせるように支援している。</p> <p>職員同士のコミュニケーションが図られているとともに、職員は利用者にとやさしく接しながら家庭的な雰囲気の中でその人らしい生活ができるよう支援している。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と事業所独自の理念を職員が共有して、利用者様が落ち着いた生活ができるよう支援しています。	管理者と職員で話し合い、「住み慣れた地域にいつまでも元気で過ごすことができるように一緒に歩いて行きましょう」との理念を作成している。 理念を居間兼食堂の目に付きやすい場所に掲示するとともに、職員は朝の申し送り時に確認し、共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回ボランティアによるリハビリ体操や、地域の文化祭に利用者の作品を出展するなどして、地域の人々と交流を図っています。	地域の文化祭に利用者と職員で制作した手提げ袋や軍手で作った人形や木の実のリースなどを出展するとともに、天気の良い日は近所を散歩しながら地域の人々と会話を交わしたり、野菜のお裾分けを頂いたりして、地域の人々と交流を図っている。 高校生の体験学習を受け入れているほか、月2回のリハビリ体操や踊りのボランティアを受け入れ、利用者が地域の人々と交流する機会を設けている。 隣接するグループホームと合同で運動会や夏祭りを行い、地域住民に参加を呼びかけて利用者が交流できるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアとの交流や運営推進会議を通じて、認知症の方の理解はしていただいていると思います。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、外部評価結果や事業所の報告を行い、ご意見をいただき、介護の現場に生かしています。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、地域住民の代表などで2ヶ月に1回グループホームと合同で開催するとともに議事録を作成し、欠席した委員には議事録を送付している。 会議では行事報告や事業所の状況報告をしているが、委員と活発な意見交換をするまでには至っていない。	多方面から委員を募り、専門的知見からの意見を得るとともに、活発な意見交換ができるよう工夫することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情を報告したり、運営上の相談を行っています。	市職員が毎回運営推進会議に出席している。 管理者は市担当者に電話をかけたり、市役所に出向いたりして相談や情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していますが、館内、中庭へは自由に出入りができるようになっています。また、介護服を着用している人がいますが、介護服ではなくなるよう日々努力しています。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成し、職員は禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為を理解している。 事業所が道路に面しているため、利用者の状況を見ながら安全のため玄関を施錠しているが、職員は利用者を見守りながら庭に出て拘束感なく過ごせるよう支援をしている。 就寝時におむつを外してしまう利用者に対しては、つなぎ服着用について家族等に説明するとともに、同意を得たうえで夜間のみ使用している。 管理者と職員は利用者の状況に応じて月に何回も話し合うとともに、経過観察記録を作成し、身体拘束排除に向けた取り組みに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないように、アザなどを見つけた時点で、職員全員で話し合っています。また、職員同士ストレスを溜めることがないように、勤務体制や環境などに配慮しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に学ぶ機会はありませんが、必要性があるときには、関係機関に相談し、活用できるように支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、見学をしていただく等をしてきちんと説明を行い、十分に納得をしていただいてから利用していただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談窓口を明記するとともに、玄関にご意見箱を設置しています。また、家族が来所された時など意見を出しやすい雰囲気づくりに努めています。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。 長期宿泊の利用者の家族等が来訪した際には、職員は家族等に声をかけ、意見や要望が出し易いような雰囲気づくりに努めている。 通いの利用者の場合は、送迎時に職員が家族等に声をかけ、意見や要望を聞いている。 家族等の要望を受けて利用時間を延長したり、夕食を提供してから帰宅ができるようにするなど、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部において月1回の会議があり、職場においては、お互いに意見を出し合っています。	月1回の全体会議に本部の総括長が出席し、職員の意見や要望を聴く機会を設けている。 事業所内で解決できることは管理者が対応するとともに、大きな課題は本部の総括長が速やかに対応できるよう取り組んでいる。 職員の要望を受け、故障したスプリンクラーを修理したり、業務用の大きなゴミ箱や入浴用のタオル、カラーボックスを購入したりするなど、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の環境は、責任を持って仕事ができるように配慮されています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な研修の場はありませんが、必要な研修は受けることができるように配慮されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人の定期的な会議の場で、意見交換などができております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時に、本人の話をよく聞いて、不安や困っていることが、少しでも軽減できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時に、家族の思いや希望を十分聞いて、安心してご利用いただけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今の生活の中で、何か困っていることがあれば、事業所内で話し合ったり、家族と相談するなどして決めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の下膳や掃除・洗濯物などを一緒に行うようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて、家族に協力をお願いしたり、家族と相談しながら、本人に一番良い方法で援助できるようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に馴染みの理容師に訪訪してもらったり、利用者の馴染みの関係が継続できるよう支援しています。	職員は2ヶ月に1回、利用者と馴染みの関係を築いている地元の理・美容師が来訪ができるよう日程調整をしている。 長期宿泊の利用者には、盆や正月に自宅に外出したり、外泊ができるよう家族等に依頼をしているほか、自宅に季節毎の衣類を取りに行くなど、人や場所との関係が継続できるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が助け合えるように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところありませんが、今後、機会があれば行っていききたいと思っています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や意向を聞いたり、家族からお話を聞いて、アセスメントすることで把握するようにしています。	職員は利用者の基本情報から生活歴や思いを把握するとともに、利用者のしぐさを観察したり、つぶやいた言葉から思いを推し計ったりして意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者で、長期間宿泊している場合は家族等の来訪時に話を聴いたり、通いのサービスを利用している場合は、送迎時に家族等から話を聴いたりして利用者本位の支援ができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用を開始するときに、本人や家族に聞いたり、サマリーをいただくなどをして、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや職員間の話し合いで、現状を把握し共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向や希望を把握して会議等で話し合い、介護計画を作成しています。定期的にモニタリングを行い、利用者の状態に変化が生じた場合は見直しています。	介護計画は管理者が利用者の自宅を訪問し、利用者や家族等に意見や要望を聞き、課題を把握して介護支援専門員や職員で話し合って作成している。 3ヶ月毎にモニタリングを実施し、3ヶ月から6ヶ月毎に介護計画を見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。	利用者の現状にそった支援を介護計画に反映させるため、モニタリングは毎月行うことを提案する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録を個別に記入し、気づいたことを話し合い、職員間で共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、柔軟な対応ができるように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力をいただいて行事等を行い、楽しんでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院をかかりつけ医としていますが、本人や家族の希望に応じて、他病院への受診を支援しています。	契約時に利用者や家族等が希望するかかりつけ医を確認している。 かかりつけ医の受診は家族等の付き添いを基本としているほか、協力医療機関への受診は職員が同行し、受診結果は電話や送迎時に家族等に報告をしている。 緊急時でも適切な医療が受けられるよう、協力医療機関と24時間連携が図れる体制を整えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に気づいたことは、報告し相談しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、サマリーを書いて、利用者が安心して療養できるように支援しています。また、情報を交換し、早期の退院ができるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていませんが、家族と相談しながら支援できるよう努めています。	重度化した場合や終末期における事業所の対応指針に、事業所は看取りは行わない方針であることを明記し、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。 医療連携体制を整えるとともに、重度化した場合は利用者の状態の変化に応じて家族等と話し合いながら、病院や介護老人福祉施設などを紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていませんが、急変時対応のマニュアルはあります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者や職員が安全に避難できる方法を身につけるため、定期的に避難訓練を実施しています。	隣接するグループホームと合同で消防署立会いのもと夜間想定を含めた避難訓練を年2回実施しているが、避難訓練に地域の人々の参加を得るまでには至っていない。 避難訓練後は検討会を行い、実施記録を作成している。 災害時に備えて、飲料水やカップラーメン2日分、缶詰、懐中電灯、ラジオなどを備蓄している。	運営推進会議を活用し、避難訓練に地域住民の参加が得られるよう話し合うことを提案する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせたコミュニケーションを大切に、プライバシーを守るように努めています。	プライバシーに関する勉強会を実施している。 職員は日頃から利用者の羞恥心や自尊心に配慮した対応に努めており、入浴介助は一人ずつ対応しているほか、トイレ介助時にはトイレのカーテンを閉めるなど、プライバシーを損ねないよう対応している。 管理者は職員が利用者と親しい関係を築いていく中で、なれ合いから不適切な言葉遣いをした場合はその都度注意をしたり、人生の先輩である利用者に対しては「さん付け」で話しかけるよう指導をしている。 個人情報に関する書類は事務所の鍵のかかる書棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表せることができ、自己決定ができるような雰囲気づくりや声掛けに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活は本人のペースを大切にしながら援助を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する衣類を着ていたり、2ヶ月に一度の髪の毛のカットもできるように支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は会話を楽しみながら、一緒に食事をとり、片付けも一緒に行っています。	職員は利用者と同じ食事を摂りながら声かけをしたり、利用者の食事の様子を観察しながら嚥下状態を把握し、食べ易くなるようおかずを刻んだりして、一人ひとりに合わせた形態の食事を提供している。 利用者は職員と一緒にテーブル拭きや下善、食器洗いなど、能力に応じて役割を担っている。 職員は誕生会や七夕祭り、敬老会、クリスマス会には特別食を提供するとともに、利用者の要望にそっておやつにさつま芋や揚げ餅などを用意し、食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事の摂取記録を行い、刻み食や粥食など、本人の状態に応じた調理をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行えるよう援助しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して本人の様子も見ながら、定時、誘導しています。なるべく、トイレでの排泄ができるように援助しています。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングに合わせてトイレ誘導をしているほか、利用者の様子を観察しながら声かけをし、トイレで排泄ができるよう支援している。 現在は殆どの利用者がトイレで排泄ができており、泊まりの利用者の場合は部屋にポータブルトイレを配置して排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように、常に水分、食事、運動ができるようにしています。また、個人に合わせた対処の方法などを行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間などは、だいたい決まっていますが、一人ひとりが、ゆっくりと楽しんで入浴できるように支援しています。	通いの利用者は午前中に入浴を支援している。 泊まりの利用者は週2回午前中に入浴支援をしているが、希望があれば午後でも入浴ができるよう対応している。 浴室に手摺を設置したり、介護用の浴用椅子を備えたりして、車いすを使用している利用者も安全にゆったりと入浴ができるよう工夫をしている。 脱衣所に暖房器具を設置し、浴室と温度差がないよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は活動的に過ごせるようにし、昼食後に休んでいただき、夜間も良く入眠できるように支援しています。また、体調に応じていつでも休むことができるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋で服薬の内容を知り、副作用についても職員全員が共有できるようにしています。また、誤薬がないように十分注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人にできることは、お願いしたり、役割が持てるような生活ができるよう支援しています。畑に野菜を作ったり、文化祭に展示する作品づくりなどを通して、張り合いのある生活を支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を楽しんだり、病院受診時にドライブを楽しんでいます。	天気の良い日は利用者の体調に合わせて近所に散歩に出かけるほか、公用車でドライブや花見に出かけるなど、なるべく戸外に出て気分転換が図れるよう支援している。 長期宿泊の利用者は、家族等の来訪時に一緒に外食や買い物に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には支援していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にやり取りができるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共有空間に季節の花や利用者の作品を飾り、生活感や季節を感じられるように工夫しています。また、居心地良く過ごすことができるように明るさや音の大きさ、室温にも注意しています。	居間兼食堂は広く明るい空間となっており、利用者と職員が季節をテーマに制作した折り紙の作品や木の実のリース、松ぼっくりなどが飾ってあり、季節が感じられる飾り付けをしている。 居間兼食堂の一角にテーブルとソファを配置し、利用者同士がゆっくり会話をしながら過ごせるよう工夫をしている。 居間やトイレ、浴室などはいずれも清潔に保たれており、利用者が気持ちよく過ごせるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビやソファの位置に配慮し、共有空間が自由に、思い思いの場所で過ごすことができるように配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッドや洗面台、ダンスが備え付けられており、利用者が自立した生活ができるようになっています。	管理者は契約時に利用者や家族等に、宿泊する場合は使い慣れた寝具を持参してもらおうよう説明している。 泊まりの部屋はエアコンやカーテン、ベッド、チェスト、洗面台、寝具などが備え付けられている。 長期宿泊の利用者は、使い慣れた毛布やポータブルトイレ、ホットカーペットなどを持ち込み、落ち着いて過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、手すり等の設置がしてあるので、一人ひとりに応じた生活ができるように支援しています。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能型居宅介護施設うちはら

作成日 平成26年5月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画とモニタリング	本人がよりよく暮らすための課題とケア指針の明確化	利用者の現状に添った支援を計画に反映させるためのモニタリングを毎月行う	1年
2	4	運営推進会議を活かした取り組み	専門的知見を得るとともに活発な意見交換ができる	行事等を通して委員との交流を密にし忌憚のない意見交換と専門的知見を表出しやすい関係づくりに努める	6か月
3	35	夜間想定避難訓練	夜間想定避難訓練の実施	年2回、夜間想定避難訓練を行なうとともに、地域住民の参加が得られるよう呼び掛けていく	6か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。